

## 支部紹介

### 第20回 愛媛大学医学部同窓会東日本支部会総会報告

第20回東日本支部総会は、2022年1月22日(土) Zoomによるオンラインで開催されました。当番幹事は20期生の松山隆生先生(横浜市立大学消化器腫瘍外科学准教授)と石岡淳一郎先生(船橋総合病院泌尿器科)で、会計報告は幹事長西井鉄平先生(横浜市立大学附属市民総合医療センター医療・診療情報部部長)からなされました。

特別講演座長は当番幹事の松山隆生先生の重厚な司会で進み、第一題は17期生で2020年鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野教授に就任された中村雅之先生でした。「精神神経疾患の分子精神遺伝子学-ベッドサイドからのGlocal研究を目指して-」のタイトルで、精神疾患の分子遺伝子学的細分化について講演されました。精神疾患の多様性から即治療につながるには時間がかかるとの見解を示されましたが、最先端の遺伝子研究による疾患細分化に近い将来良質な治療につながることを期待しております。

次の座長は石岡淳一郎先生が担当され、第二題は11期生でふかやクリニック院長の古閑比斗志先生が「ウイルスと外交」のタイトルで講演されました。外務省で長年活動された多彩な国際活動を基盤に、新型コロナウイルス感染症もオミクロン株に変わり病原性は低下しましたが、スペイン風邪の歴史から3年ほどで病原性が軽症化しても、その後10年ほどは小さな流行を繰り返す歴史をご教授頂き、改めて管理者として気を引き締めるの必要性を感じました。

新型コロナウイルス感染症第6波の真っ只中ですが、22名の同窓生にご参加頂きました。19期までと20期以降のグループ分けがなされた交流会となり、楽しみにしていた参加者全員のひと言近況報告が聞けなかったことが残念ですが、同窓生の皆さんのご活躍や、色々な形の医療展開で地域貢献や世界貢献をされているお話をうかがえたのはとても貴重で、楽しい時間でした。

2021年に東京オリンピックパラリンピック2020を安全下に終えた日本が2022年をどのような年として成長していくのか、2023年の本総会がどのような形で開催できるのかは未定ですが、私達の能力や想定を越える事態に遭遇しても、覚悟を決めてともに歩める同窓の仲間達がいるだけで、ありがたいと思います。

ご参加いただいた同窓の皆さん、本当にありがとうございました。

令和4年1月22日  
(文責 酒向 正春 9期)

(大泉学園複合施設/ねりま健育会病院長・ライフサポートねりま管理者)

